

## 令和5年度 第9回益富地域会議 会議録

日 時：令和5年12月20日（水曜日）午後6時30分から午後7時35分まで

場 所：益富交流館 多目的ホール

出席者：太田市長

＜地域会議委員＞伊東 康博、梅木 貴仁、木戸 彰彦、黒田 隆、小寺 晃、  
今野 貞直、白井 安良、田中 強、星田 恵子、細井真一郎、  
政池 裕三、間瀬 亮次、山内日出美、山田 武志、山川 雅義  
(欠席) 宇野 正美、高見 弘道、竹下 敬治、山田 秀明

＜企画政策部＞都築副部長

＜地域振興部＞後藤部長

＜企画課＞丹羽副課長

＜都市計画課＞西岡担当長

＜高橋支所＞前田支所長、出口副支所長、吉野担当長、永田主査、眞野主査、  
川瀬主査

### ＜内容＞

#### 1 豊田市民の誓いの唱和

#### 2 会長あいさつ

#### 3 答申書授受

山田会長から太田市長へ答申書を手渡した。

#### 4 市長あいさつ

#### 5 意見交換

##### ＜政池委員＞

- ・これまで豊田市は「クルマのまち豊田」として発展し、働く人や住みたい人が全国から集まってきた。今後も、変わらず「クルマのまち」としていくのか、新たに車を使って市民に貢献していく特徴のある仕組みを取り入れるなどにより、働くまちだけでなく、多くの人が集ってくる、住みたくなるまちとならないものかと思う。

##### ＜太田市長＞

- ・「クルマのまち豊田」は、インパクトが強すぎてしまっていて、他にも、子育て、文化芸術、スポーツなど特色はあるが薄まってしまっていると思う。市外に転出した人から、やはり豊田市はいいですねと言われたり、近隣の市町の福祉関係の方から豊田の福祉はいいですねと言われることが多い。
- ・車を使った取組では、市街地でバス路線で自動運転の実証を行っている。五ヶ丘地区でも走っている燃料電池バス「SORA」の導入など、車の町だからこそ、車を使った Co2 削減や電動車によるカーボンニュートラルに向けた動きを行政が率先して実行していく。

### <木戸委員>

- ・今回の計画案の中に、「心のつながり」や「人のつながり」という言葉が出てくる。是非、本質・本物を目指す構想として完成していただきたく、この「つながる」の具体的な取組などのお考えを聞きたい。
- ・まちづくりを考えた時、車を使わずに自転車か歩いて行ける距離に、人達が集まって小さな町にしようという考えがコンパクトシティである。豊田市駅の近くには、商店街が残っていて様々な機能があり、人が住みたい町にすることができている。一方、四郷のような郊外型の大規模店舗を作ったり、大きな道路や駐車場を作り、ガソリンを撒き散らして人が集まって来るという矛盾した形となっている。
- ・緑豊かなまちづくりを目指すという方針の中で、農地を保全せずに、インター周辺の農地をつぶして工業団地を作るのではなく、豊田市は「知の集積の場」としてはどうかと考える。
- ・この町をSDGsでデザインしたら、新しい町の姿はどうなるのかを真剣に考えていただいて、コンセプトが見えるようにすれば市民もついてくるし、出来上がる豊田市は、「日本一住みやすい町」になると思うので期待している。

### <太田市長>

- ・3年半の新型コロナを経験してきた中で、地域社会のつながりがどうなったのか問われている。自治区の加入の是非や子ども会、高齢者クラブの運営が厳しくなったり、維持できない状態となるなどの事態が起きている。これは非常に危険な状態であると考える。これらの組織や活動は、最後の防波堤であることは間違いない。「つながる」というキーワードで、一番原点で考えなければいけないのは、地域社会でのつながりを持たないと機能しないということだと思う。
- ・コンパクトシティの議論は、豊田市は広大であるため、色々な特色や条件の違う地域が存在している。豊田市駅を中心とした一帯は、まさにコンパクトシティであり、国土交通省がコンパクトシティ（ローカルシティ）を国レベルで議論する時は、豊田市の駅周辺がモデルとなっている。豊田市は、これまでローカルシティという言い方をしてこなかったが、ずっと前からこうした町づくりを進めてきた。
- ・規模的には違うが、益富地区でも、五ヶ丘のあの空間そのものがローカルタウンとして位置づけることができると思う。機能的に足りない部分もあるが、近い将来に自動運転が可能なエリアだと思えるし、ローカルを楽しみながら、人と人がつながる空間となる可能性を感じる地域である。
- ・産業構造の転換の話は、豊田市は自動車産業が主軸で、生産規模や雇用規模を考えると、ここから外れることは考えられない。知の拠点（集積）のようなことは、豊田市の中で完結型でやるのは疑問があり、国、県、民間企業などの動きをトータルで見て、豊田市がどのような役割を果たすかを考えなければならないと考える。

## 6 市議あいさつ

会議を傍聴した、市議会議員の吉野議員、山本議員があいさつした。

## 7 事務連絡

- (1) 次回の益富地域会議の予定について
  - ・日時：令和6年1月17日（水曜日）午後6時30分から
  - ・場所：益富交流館 多目的ホール
  - ・内容：昨年度地域会議から提言した、益富地区まちづくり計画の策定の中間報告として計画の素案説明を行う。
- (2) 先月の地域会議での質問について
  - ・市営住宅の入居申し込みに必要な書類としている納税証明について、担当課である定住促進課からの情報を提供した。
- (3) 高橋支所だよりの発行について
  - ・完成した高橋支所だよりについて事務局が情報提供した。
- (4) 足助支所からの情報提供について
  - ・足助支所が主催する「山村バスツアー」について情報提供した。
- (5) 地域会議委員の選挙運動について
  - ・地域会議委員は非常勤の公務員に該当するため、選挙運動において制限があることについて説明した。